

図 2-2

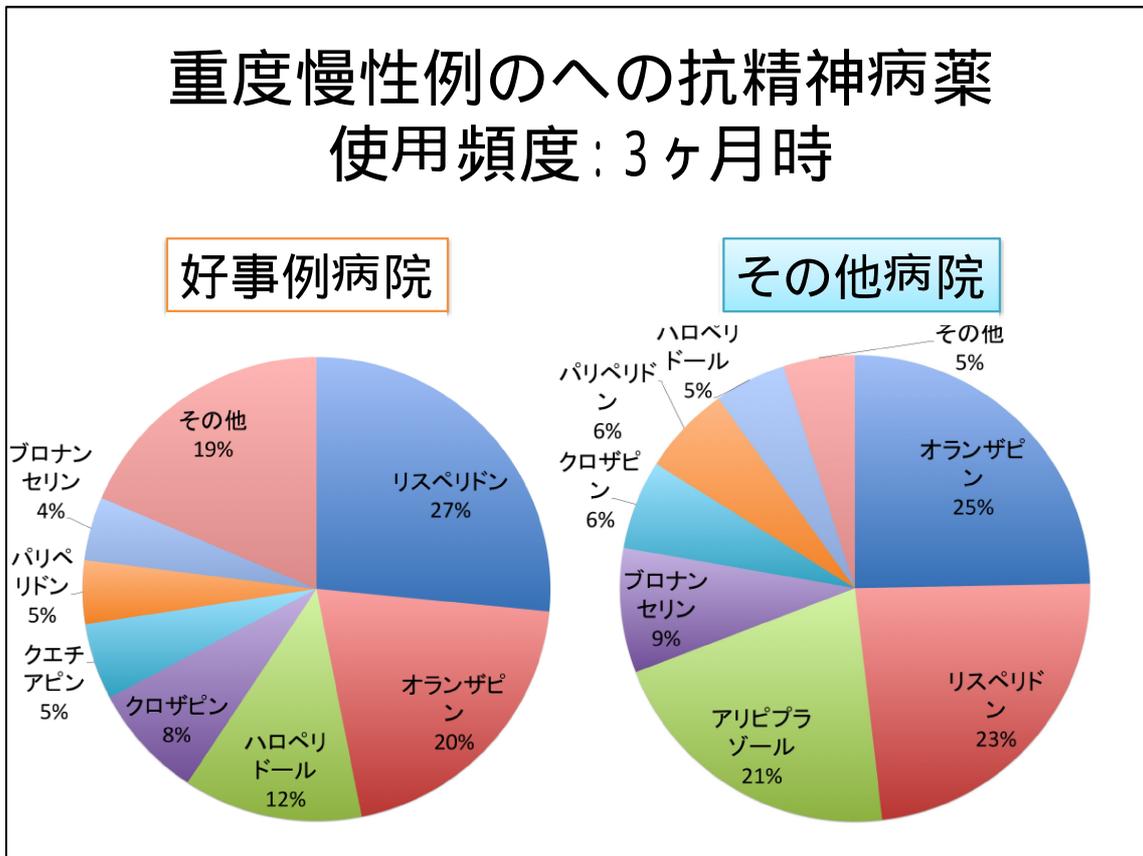


図 2-3

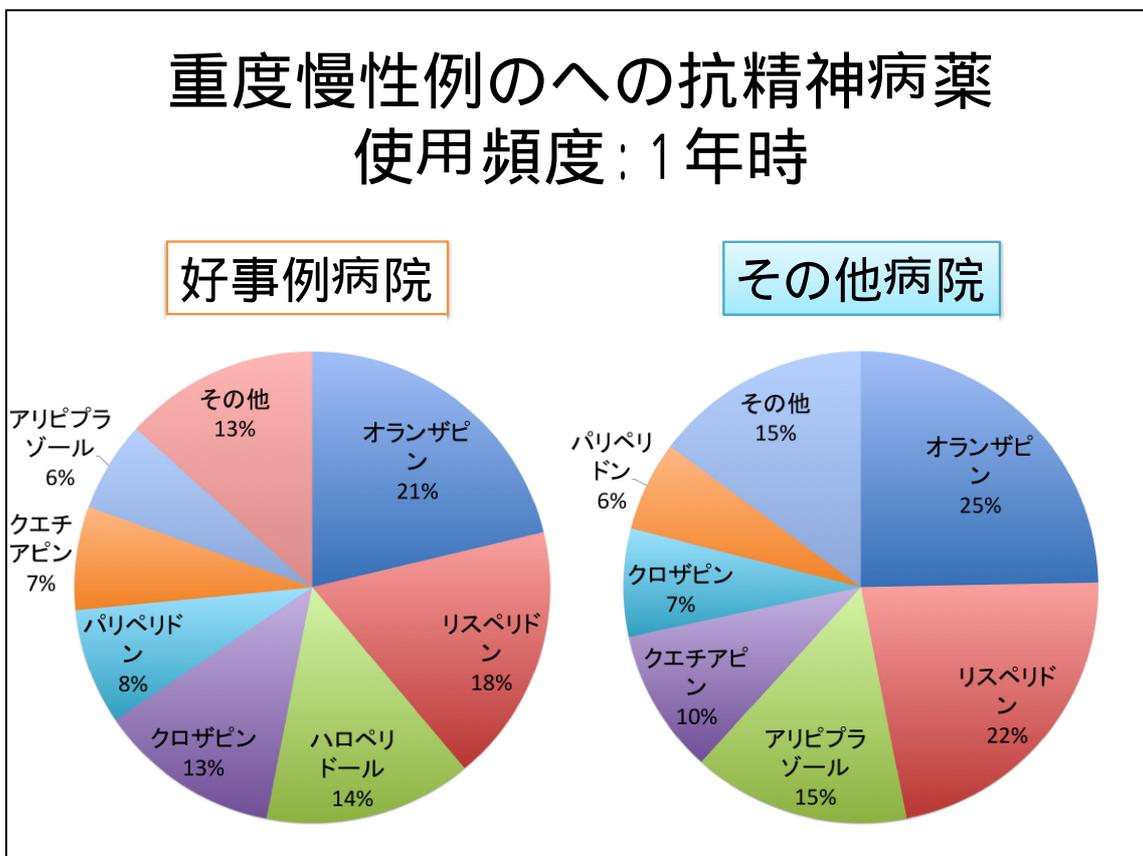


表 5

重度慢性例の1年時処方の主剤 (処方頻度が10%超の薬剤のみ)

好事例病院		その他病院	
オランザピン	21.3%	オランザピン	24.7%
リスペリドン	17.7%	リスペリドン	22.2%
ハロペリドール	14.2%	アリピプラゾール	14.8%
クロザピン	12.4%	クエチアピン	9.9%

好事例病院におけるF20症例への抗精神病薬投与（主剤）

	入院時		3ヶ月経過時		1年経過時		
	N	%	N	%	N	%	
第二世代薬	オランザピン	26	23.4%	23	20.4%	24	21.2%
	リスペリドン	22	19.8%	30	26.5%	20	17.7%
	クロザピン	3	2.7%	9	8.0%	14	12.4%
	パリエピドン	6	5.4%	5	4.4%	9	8.0%
	クエチアピン	5	4.5%	6	5.3%	8	7.1%
	アリピプラゾール	10	9.0%	4	3.5%	7	6.2%
	アセナピン	1	0.9%	2	1.8%	3	2.7%
	ゾラントセリン	7	6.3%	5	4.4%	1	0.9%
	ペロスピロロ	0	0.0%	2	1.8%	1	0.9%
	ゾレクスピプラゾール	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	小計	80	72.1%	86	76.1%	87	77.0%
第一世代薬	ハロペリドール	20	18.0%	14	12.4%	16	14.2%
	ゾルフェナジン	3	2.7%	4	3.5%	3	2.7%
	ゾロムペリドール	2	1.8%	3	2.7%	3	2.7%
	クロルフロマジン	1	0.9%	2	1.8%	2	1.8%
	ゾテピン	2	1.8%	1	0.9%	1	0.9%
	ペルフェナジン	1	0.9%	1	0.9%	1	0.9%
	スルトゾリド	1	0.9%	1	0.9%	0	0.0%
チアゾリド	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	
チミペロン	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	
小計	31	27.9%	27	23.9%	26	23.0%	
合計	111	100.0%	113	100.0%	113	100.0%	

表6-1

その他病院におけるF20症例への抗精神病薬投与(主剤)

	入院時		3ヶ月経過時		1年経過時			
	N	%	N	%	N	%		
第二世代薬	オランザピン	21	27.6%	20	24.7%	20	24.7%	
	リスペリドン	21	27.6%	19	23.5%	18	22.2%	
	アリピプラゾール	16	21.1%	17	21.0%	12	14.8%	
	クエチアピン	3	3.9%	3	3.7%	8	9.9%	
	クロザピン	1	1.3%	5	6.2%	6	7.4%	
	パリペリドン	5	6.6%	5	6.2%	5	6.2%	
	ゾラチオン	3	3.9%	7	8.6%	4	4.9%	
	ゾラチオン	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	
	ペロスピロン	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	
	アセナピン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	小計	70	92.1%	76	93.8%	75	92.6%	
	第二世代薬	ハロペリドール	5	6.6%	4	4.9%	3	3.7%
		ゾチピン	1	1.3%	0	0.0%	1	1.2%
クロルフロマジン		0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	
スルピリド		0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	
ペルフェナジン		0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	
小計	6	7.9%	5	6.2%	6	7.4%		
合計	76	100.0%	81	100.0%	81	100.0%		

表 7-1

薬物治療戦略	好事例 (N=113)		その他 (N=81)		p
	N	%	N	%	
主剤を他の抗精神病薬へ変更(切り替え)	44	38.9%	22	26.8%	.078
入院時の主剤(最大用量の抗精神病薬)を継続(同量)	35	31.0%	28	34.1%	.640
内服について念入りな確認を行った	25	22.3%	19	23.2%	.889
入院時の主剤を継続(ただし増量)	21	18.6%	13	15.9%	.620
入院時の主剤を継続(ただし減量)	16	14.2%	12	14.6%	.926
増強療法を実施(抗精神病薬以外の薬剤の追加)	16	14.2%	16	19.5%	.319
抗精神病薬を追加(2剤併用)	14	12.4%	14	17.1%	.357
抗精神病薬の多剤併用を単純化(併用数を削減)	14	12.4%	4	4.9%	.074
抗精神病薬を追加(3剤以上の併用)	13	11.5%	5	6.1%	.198
薬物療法の治療方針について多職種でカンファレンスを行った	12	10.6%	25	30.5%	.000
クロザピンを新たに投与	8	7.1%	3	3.7%	.307
薬物療法の治療方針について同僚医師に相談した	7	6.3%	12	14.6%	.052
薬物療法の治療方針について指導者(上司、専門医など)に相談した	7	6.2%	11	13.4%	.086
薬物療法の治療方針について文献を参照した	6	5.3%	9	11.0%	.143
mECTを実施	5	4.4%	5	6.1%	.601
薬物ガイドラインに基づき治療方針を再検討した	5	4.4%	10	12.2%	.044
入院時処方がなく抗精神病薬を新規投与(治療中断ないし初回入院例)	4	3.5%	4	4.9%	.642
デボ剤を新たに導入	0	.0%	2	2.4%	.095
その他()	2	1.8%	1	1.2%	.758

表 7-2

薬物治療戦略	好事例 (N=113)		その他 (N=81)		p
	N	%	N	%	
主剤を他の抗精神病薬へ変更(切り替え)	43	38.1%	23	28.0%	.145
内服について念入りな確認を行った	24	21.2%	16	19.5%	.768
入院時の主剤(最大用量の抗精神病薬)を継続(同量)	22	19.5%	20	24.4%	.409
抗精神病薬を追加(2剤併用)	22	19.5%	17	20.7%	.828
薬物療法の治療方針について多職種でカンファレンスを行った	18	15.9%	21	25.9%	.087
抗精神病薬の多剤併用を単純化(併用数を削減)	17	15.0%	10	12.2%	.570
入院時の主剤を継続(ただし増量)	15	13.3%	12	14.6%	.786
増強療法を実施(抗精神病薬以外の薬剤の追加)	13	11.5%	13	15.9%	.378
薬物療法の治療方針について指導者(上司、専門医など)に相談した	13	11.5%	17	20.7%	.078
抗精神病薬を追加(3剤以上の併用)	12	10.6%	9	11.0%	.937
入院時の主剤を継続(ただし減量)	9	8.0%	9	11.0%	.473
mECTを実施	9	8.0%	4	4.9%	.394
薬物療法の治療方針について同僚医師に相談した	9	8.0%	18	22.0%	.005
薬物ガイドラインに基づき治療方針を再検討した	7	6.2%	15	18.3%	.008
薬物療法の治療方針について文献を参照した	7	6.2%	11	13.4%	.086
クロザピンを新たに投与	6	5.3%	4	4.9%	.893
デボ剤を新たに導入	6	5.3%	2	2.4%	.318
その他()	5	4.4%	3	3.7%	.790

表 8

重度慢性例への 薬物療法戦略の実施回数

実施数	好事例	その他	p
N	113	82	
入院時から3ヶ月時	2.2	2.6	0.134
3ヶ月時から1年時	2.3	2.7	0.096 ⁺